佐太神社崇敬会だより

神在の社（かみありのやしろ）

佐太神社崇敬会

令和５年９月発行

第七号

特集：「重要文化財 佐太神社正中殿ほか二棟保存修理工事」を振り返って



佐太神社崇敬会だより　神在の社　第七号

令和五年九月発行

特集「重要文化財 佐太神社正中殿ほか二棟保存修理工事」を振り返って

毎年発行　編集発行　佐太神社崇敬会

島根県松江市鹿島町佐陀宮内七三

写真　阿礼／編集　坂本洋子

佐太神社崇敬会へご入会ください

導きの神 佐太大神（猿田毘古大神）をはじめ十二柱の神々、この御社に集う八百万の神々からの広大無辺なる御神徳を授かりましょう

佐太神社崇敬会は平時における佐太神社を奉護して、御神徳を宣揚し、年中数度の古伝の祭事を振興して、神社の隆昌を願い、御本殿三社をはじめ数々の文化財、社宝、美術品等を末永く後世に伝えると共にこれを活用して文化の創造・発展に役立て、大神様の広大無辺なる御神徳のもと、人々の平安と繁栄を願うものであります。佐太大神をはじめ十二柱の神々、この御社に集う八百万の神々からの幸福、ご縁がいただかれますようご入会のご案内を申し上げます。尚、崇敬会の活動に対する寄付金も受付けております。既にご入会の方もご親戚、ご友人など多くの方々とのご神縁を結んでいただきたくご紹介いただきますようお願い申し上げます。

年会費

◆準会員	三千円
◆会員	五千円
◆正会員	壱萬円
◆法人会員	参萬円

待遇

◆参拝時に御垣根にて拝礼が出来ます
◆祭事催しのご案内をいたします
◆崇敬者大祭にご招待いたします
◆毎年神札を授与いたします
◆会員章を授与いたします

ご入会方法は佐太神社社務所へお問い合わせください。ホームページからもお申し込み頂けます。

崇敬会ご入会

式年御造営 第二期工事 第二期工事に伴う御奉賛のお願い

氏子・崇敬者の皆様方のご支援、ご高庇を賜り平成の大修復事業として平成二十五年より御本殿三殿をはじめ諸施設の修復を行い平成二十八年九月二十三日に無事正遷座祭を斎行申し上げました。ひとえに皆様方の深甚なるご信仰の表れと厚く感謝申し上げます。引き続き神域の荒廃した部分を修復して愈々ご神徳の宣揚に奉仕すべく第二期工事として「社務所増設工事」や「鎮守の森保全事業」などの事業を計画しております。誠に恐縮に存じますが、皆様方の御懇情を賜り、ご神徳に報いることができますよう宜しくお願い致します。

ホームページからもお申し込み頂けます。

第二期工事に伴う御奉賛

佐太神社崇敬会

佐太神社社務所

〒690-0331 島根県松江市鹿島町佐陀宮内 73

TEL・FAX（0852）82-0668

info@sadajinjya.jp

http://sadajinjya.jp/

ご挨拶



佐太神社崇敬会 会長　宇藤 志郎

謹啓

時下ますますご清祥の段　お慶び申し上げます。平素より佐太神社および佐太神社崇敬会の儀につきましては、毎々御崇敬を賜り誠に感謝申し上げますとともに、有難く厚く御礼申し上げます。

皇室に於かれましては、コロナ禍のため中止されてきた新年の一般参賀を三年ぶりに感染対策を講じて、執り行われました。久しぶりのこととなり感無量で、我々国民にとりましては大変ありがたく、喜ばしい限りであります。

世の中は、新型コロナウイルス感染症は法上の扱いが二類から五類へと引き下げられ行動規制撤廃となりましたが、いまだ完全な終息には至らず、またロシアによるウクライナ侵略、北朝鮮によるミサイル実験、更には物価の高騰と、我々の生活は穏やかにはあらず、不安な日々を送っています。

今年の干支は「癸卯（みずのとう）」であります。「癸（みずのと）」は雨や露、霧など、静かで温かい大地を潤す恵みの水を表し、次の生命を育む準備が整った状態を意味して、「卯（う）」は、穏やかなウサギの様子から、安全、温和の意味があり、「卯」という字の形が門を開いてる様子を連想させることから、「冬の扉が開き、飛び出る」という意味もあります。卯年は何かを開始するのに縁起が良く、希望があふれ、景気回復、好転する良い年となると言われていることから、癸卯はこれまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年になると言われています。

昨今の明るい兆しが見えない世情であるからこそ、私たちに大きなお恵みを与えて下さる、大神様たちの御札をお祀りし、日々祈りの誠を捧げることこそが、成長からの飛躍を示す今年の干支の「癸卯」に表されていると思います。

皆様におかれましては、今年こそコロナ禍が終息に向かい、平和と安寧の日々が来復することを祈念申し上げます。

終わりに、引き続き佐太神社、また佐太神社崇敬会の事業推進に、鋭意進めてまいりますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬白

ご挨拶



佐太神社 宮司　朝山 哲

先ずは、聖寿の万歳と皇室の弥栄、氏子崇敬者の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。

さて、昨年まで新型コロナ感染症の蔓延のため、すべての祭事を縮小し斎行して参りました。去る五月八日に新型コロナウイルス感染症法上の扱いが、二類から五類へと引き下げられ、すべての行動規制が撤廃となりました。当社ではコロナ禍以後感染症終息の祈りを捧げてまいりましたが、これに先駆け感染症衰勢奉告祭を執り行いました。これも偏に大神様たちの御神徳によるところと感謝申し上げます。

また、五月三日には感染症対策を取りながら、できる限り通常通りの形で、嘉例により古傳祭直会祭を斎行いたしました。このお祭りに合わせて、午前十時より佐太神社崇敬会主催による崇敬者大祭を、崇敬会の皆様とともに斎行することができたことを、とてもうれしく思うとともに、大神様たちの御神威に依るものと喜びに堪えません。

未だ完全なる終息には至っておりませんが、今後も感染状況を踏まえつつできる限り通常の状態での斎行を行ってまいりたいと思います。皆様におかれましては大神様の御導きにより御神恩の下、コロナ禍転じて福となりますよう心よりお祈り申し上げます。

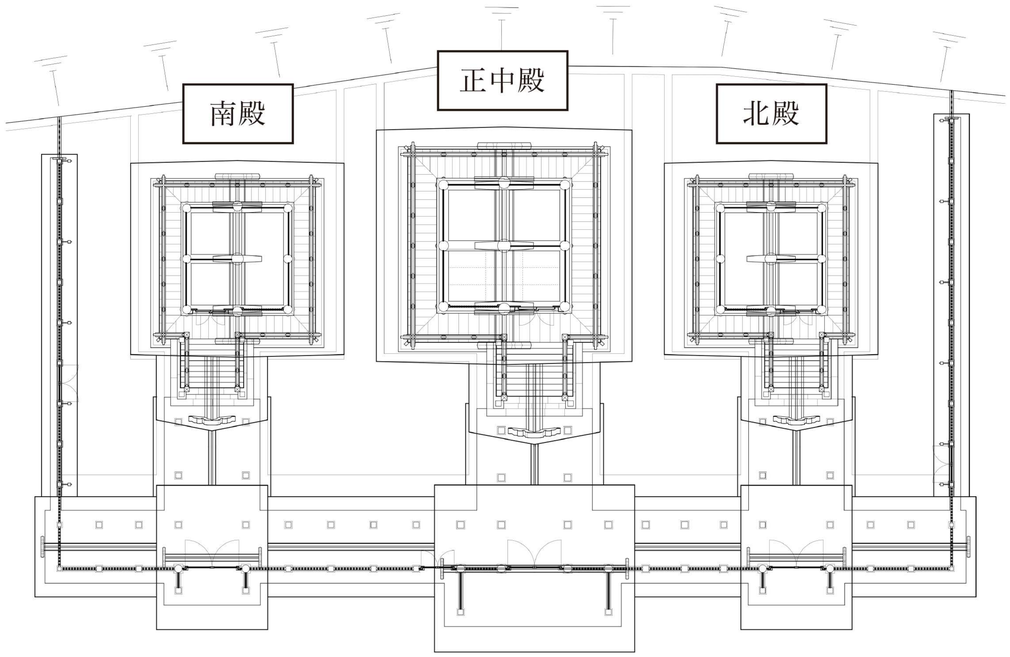
平成二十四年より執り行ってまいりました修復工事において、第二期工事における社務所改築を残すところとなりました。社務所改築も、本年度には終えることとなる予定でございます。また、昨年度には、佐太神社御本殿の防災施設を設置することができ、四月十四日には、竣工清祓祭を執り行うことができました。長年の懸案でありました、神社を災害から守るということにおいて、とても心強い設備が出来たと考えております。これもひとえに、皆様方をはじめ、地域の方々の、ご支援、御協力のお陰であると感謝申し上げます。先人たちが大切に守り残したこの国の重要文化財である佐太神社御本殿を、後世につなげるため、私を始め、職員一同大切に管理し、継承してまいりたいと存じます。また日々の奉務においても、誠心誠意、神明奉仕に励む所存でございます。

皆様方には、引き続き御支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

特集

『重要文化財 佐太神社正中殿ほか二棟保存修理工事』を振り返って

株式会社　石原建築 代表取締役　石原 司



【図 1】*正中殿と北殿は一般的な大社造の構造。通常は向かって右側に入口があるが、南殿の入り口は左側にあり、内部構造も同様に一般的な大社造とは対称の構造である。

【一】建物の概要

佐太神社は正中殿を中心として北殿と南殿が左右対称に配置された全国的にも珍しい三殿並立の大社造の社殿である。*特に南殿は通常の大社造とは逆の構造で建てられており、他に類例がない。【図 1】

御造営以来、幾度かの修理、建替を経て、現在の社殿は文化四年（一八〇七）に造営された。昭和五十七年に三殿ともに国指定の重要有形文化財となった。

【二】修理の概要

近年では昭和五十四年に檜皮の葺き替えを行って以来、大規模な修理工事は行われていなかったが、平成二十五年度より平成二十八年度に亘り、御本殿三棟の保存修理工事を年度毎に一棟ずつ着手した。三棟とも屋根工事（葺き替え、箱棟、鬼板等棟飾り修繕）、高欄縁板等の腐食木部修繕、建具、錺金物、基壇石の補修取替等を行い、結果的に文化の御造営以来の大規模修理工事となった。



【三】文化財建造物の保存修理工事の流れ

文化財建造物の保存修理はまず個々の価値をしっかりと見極め、文化財としての価値を損なわないように詳細な調査を行い、修理方針を慎重に検討する必要がある。調査結果とデータをもとに専門家による協議を重ね、解体調査へと進み、部材一つ一つに番付しながら詳細に調査と記録を残していくのだが部材は原則として既存のもの（古材）を極力再活用して保存修理に努めるため、古材の繕いには工夫や補強を行う等の適切な補修方法を定め、腐朽等破損が著しいものについては新規材に取替えるといった判断を都度していかなければならない。また保存修理独自の考え方も多く、例えば古材の一部を繕う場合に古材の樹種と同じの樹種を使用し、木目にも留意して古材と新規材の継ぎ目に極力違和感がでないよう努めている。

さらに建物の修理歴等の歴史的観点に基づいて修復方法を決定した後は、当然ながら伝統的な技術や様式、知識と経験を用いて実際に組立工事をしていく流れとなる。



【写真 1】正中殿保存修理工事完了直後の本殿三棟（平成二十六年）
正面から見て中央・正中殿（大屋根）の鬼板
南殿（左側）は平成二十五年に工事完了（正中殿工事の前年度）
北殿（右側）は平成二十七年に着工（正中殿工事の翌年度）この写真は修繕前

【四】佐太神社正中殿鬼板の復元修理

佐太神社本殿三棟の保存修理工事を改めて振り返ると特に印象に残っている工事内容の一つに鬼板の復元修理が挙げられる。

鬼板とは神社仏閣の屋根の木造棟（箱棟）の両端を覆う板であり、雲型、波型等の彫刻が施された装飾性の高い部材である。（瓦屋根で言うところの鬼瓦にあたる部材）

鬼板の材料には耐久性に優れた肥松（松脂を多く含んだ松材）が使われることが多く、佐太神社でも復元前、復元後ともに肥松を使用した。鬼板の古い物には彫刻を施した木材を素地のまま取り付ける例もあるが、彫刻を施した木材を下地として銅板を纏った鬼板が多い。

鬼板は正面（表面）のみに彫刻を施す事が一般的であるが、佐太神社本殿三棟は大屋根、階隠に取り付けられている鬼板計十二枚全てが裏面まで彫り込んである（両面彫り）、非常に特徴的な鬼板である。

正中殿の鬼板はその中でも、高さ約二ｍ、幅約二・七ｍ、厚み約三〇㎝と最大の大きさで、その復元修理には四カ月を要した。

【五】実際の鬼板復元作業の様子①
取外し～彫刻絵様写し取り

復元修理にあたって、修理作業中に正中殿を雨水より守る仮設屋根を組上げ、鬼板、箱棟周りに吊り作業足場を設けた。先述したように文化財修理では原則、原状復元とする為、解体の際は細部に至るまで既存寸法を計測、記録し、修理作業の準備を整えていった。【写真2】

鬼板の取外しはホイストクレーンを補助的に使用し、手作業にて軒先に設置された作業ステージへ降ろした。【写真3】

銅板に纏われた鬼板は大抵の場合、著しく腐朽している為、銅板を捲る前に彫刻の絵様を写しとり復元用の原寸型板を製作する。【写真4、写真5】



【写真 3】鬼板取外し後



【写真 2】鬼板取外し前　屋根側面から撮影した鬼板



【写真 5】銅板捲り後の鬼板
著しく腐朽していた下地の木材



【写真 4】屋根より降ろした鬼板



【写真６】数枚の木板を繋ぎ合わせて木下地を成形　正中殿の鬼板１枚の成形には合計 13 枚もの部材を要した
長さ 2.4m、幅 40 ㎝、厚み 8 ㎝（板材）8 枚
長さ 1.0m、幅 40 ㎝、厚み 15 ㎝（板材）2 枚
長さ 2.0m、幅 40 ㎝、厚み 15 ㎝（板材）2 枚
長さ 2.0m、幅 15 ㎝、厚み 6 ㎝（角材）1 本

【六】実際の鬼板復元作業の様子②　鬼板の木下地製作

本来、鬼板の製作は一枚の木板から原寸板を基に成形、彫刻、銅板捲きの工程で進められるが正中殿のような大型の鬼板の場合、一枚の木板からの成形が難しい為、数枚の木板を繋ぎ合わせて木下地を成形する。【写真６】

成形後は鬼板の絵様を彫刻した後、鬼板の底部、屋根と接する部分（またがり）を加工する。またがりの出来はそのまま屋根と鬼板の取付きの出来となる。これは木下地に銅板を纏った後はまたがりの調整は一切できない為、またがり加工の時点で銅板の厚みを考慮して精度の高い状態に仕上げなければならず、鬼板作りで最も難しい作業である。加えて、佐太神社の鬼板は一般的な鬼板と比べて厚さが三倍近くあり、一枚の鬼板の表面と裏面でまたがりが接する屋根の勾配が異なる為、表面と裏面それぞれに原寸型板を作成し、慎重に加工する必要があった。【写真７】

こうした工程を経て、復元した鬼板の木下地の上に銅板を纏わせ、その鬼板を葺き替え後の屋根に取り付けて完成となる。【写真１、写真８、写真９】



【写真７】彫刻後にまたがり（屋根に接する部分）を加工
彫刻は両面彫り
一枚の鬼板の表面と裏面でまたがりが接する
屋根の勾配が異なる為、原寸型板をそれぞれ
作成して加工した



【写真８】修繕した鬼板の木下地
この上に銅板を纏って鬼板は完成となる

本殿三棟の保存修理工事を振り返って

今回、大工工事の観点から佐太神社本殿三社の特徴的意匠と鬼板の復元作業に焦点を置き、平成の大修復と呼ばれる保存修理工事を振り返った。

この他に印象的であったのが、佐太神社本殿の化粧材（目に見える部分の部材）に欅をはじめ、楠、榧、杉、松と様々な種類の木材が使用されていた事である。材種が異なれば、その特性も大きく異なる為、通常は化粧材の材種を統一する場合が多いが御造営当時の時代背景や地域的な特性も垣間見える印象深い本殿である。

こうした機会を頂戴し、改めて修復の歴史を振り返ると、佐太神社本殿が昭和五十七年に国の重要有形文化財に指定される以前の昭和五十五年の修理工事と平成の大修復工事とともに朝山芳圀前宮司が弊社に大工工事のご縁を繋いで下さったことへ改めて深い感謝の思いが湧いてくる。



【写真９】銅板を纏い本殿屋根に取付けられた鬼板
完成した鬼板の重量は 300 ㎏にも及んだ
取付は葺き替えられた屋根を傷めない様、手作業で慎重に行った

特集

『矢取神社と弓石』



矢取さん

矢取神社は松江市鹿島町上講武清水地区に鎮座し当社主祭神である佐太大神の神話にゆかりの小祠です。この事について当社先代宮司であった朝山芳圀氏は左記の通り記しています。

佐太神社から東の方に、秀麗な形のよい山がある。御的山である。佐太神社の御誕生の地加賀の潜戸と佐太神社の中間にある。佐太大神の御誕生の地加賀の潜戸と佐太神社との中間にあって、而も一直線をなしている。大神がこの山を的にして矢を射られたので、お的山と云うのだと傳えている。この傳えによって、佐太神社の境内正面の南側にある竪四尺ばかり、横三尺ばかりの細長い石が二本斜交（はすか）いに立っている。これを弓石と云っているが、古くは騎馬の士　十人が此の所から御的山に向かって弓を射たと云う伝えもある。そしてこの山の麓に土地の人々が親しみを込めて「矢取さん」と呼んでいる祠があって、その御祭神が矢を拾われたと云うのである。ここはまた、佐太神社の十月の神在祭の折に、神々の来臨を告げ、また神々の来臨している聖なる場所であると標示する二十八ヶ所の幣挿場の一つでもあった。



鳥居をくぐり石段の先に御社がある



松江市鹿島町上講武清水地区に鎮座する小祠（矢取神社）

矢取社は佐陀大社付属の神領地で祭祀は佐太神社の社人が行っていたのではないかと思われます。明治維新後に佐太神社から離れ、現在は地元の里人によって大切に祀られています。文献上の記録等はほとんど無いため御祭神、創建年代、祭礼日などは不明です。

また、佐太神社の正面の石段の南側に立つ弓石は社伝によると佐太大神の神話に因むものとされていますが、佐陀大社縁起（明応二年（一四九三年））には伊弉諾尊が、大葦の的庫山に向って矢を放たれ、その弓は地に落ちて半割れの岩となった旨が記されています。

なお、雲陽誌（享保二年（一七一七年））には「社地中庭にあり一石は長さ四尺　一石は長さ三尺　古は正月七日弓始ノ時騎馬十人庭中にて列て是を射今は神事絶たり」とあります。

この度、佐太神社崇敬会の環境整備事業として弓石に玉垣を設置し案内板を設ける事としましたのでご報告申し上げます。







弓石 佐太神社崇敬会の環境整備事業として弓石に玉垣を設置

佐太神社本殿前向かって左側に立つ石が弓石

特集

重要文化財佐太神社正中殿ほか二棟防災施設整備事業 完工



貴重な文化遺産を後世に残す

令和三年度から令和四年度の二年間にわたり、重要文化財である佐太神社を火災等から守るため、防災施設整備が行われました。【事業費一億五千七百四十八万円】（文化庁・島根県・松江市の補助を含む）この工事に携わって頂いた設計者の株式会社 ＫＯＵ設計様、施行者の能美防災株式会社 中國支社様はじめ協力会社の皆様には長期間にわたり大変お世話になりました。ご指導いただきました文化庁・島根県・松江市様にも厚く御礼申し上げます。

これを機に当社では自主防災組織を発足し、重要文化財である佐太神社御本殿三社をはじめ、ユネスコ無形文化遺産に登録されている佐陀神能を舞う舞台である舞殿ほか付属の施設を災害から守り次世代へと受け継いで行きたいと思いますので引き続きご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

















令和五年四月十四日

防災施設整備工事 竣工清祓祭

この度の事業は、重要文化財である佐太神社を火災から守るために、火災を予防しかつ有事の際には消防隊が現場に到着するまでの間、現有の職員体制で対応できる万全な奉斎施設の整備を図るものです。

令和五年四月十四日には防災施設整備工事竣工清祓祭を執り行い関係各位のご臨席を賜り工事の完工を祝いました。祭典終了後、この度の防災施設整備工事で設置した自動放水銃五基による放水を行いました。





特集

重要文化財佐太神社正中殿ほか二棟防災施設整備事業 完工



自動式放水銃（地下式・ポール式）による放水試験の様子（ドローン空撮 : アイル重文防災株式会社）

重要文化財佐太神社正中殿ほか二棟防災施設整備工事 工事概要

1. 消火設備



地下式自動式放水銃（首振放水銃） 2 基

消火ポンプが起動すると地面の蓋が自動的に開き放水銃が出てくる仕組み

ポール式自動式放水銃（首振放水銃） 3 基

ポールにあらかじめ設置してあるもの



消火栓屋外設置型 4 基

一般に使われているホースによる消火設備



消火ポンプ 1 基

1 分間に 3,500 リットルの水を送る能力を有する
ディーゼルエンジンポンプ



2. 自動火災報知設備

熱及び煙を感知すると自動で警報を発する設備
放火による炎を感知すると警報発報とともに放水を開始する



3. 防犯設備

防犯カメラによる監視設備／ 24 時間監視



4. 避雷設備

雷が直接建物に落ちて火災にならないよう避雷針に雷を誘導する設備



独立避雷針

雷が直接建物に落ちて火災にならないよう避雷針に雷を誘導する設備



自動旋回式放水銃（地下式）

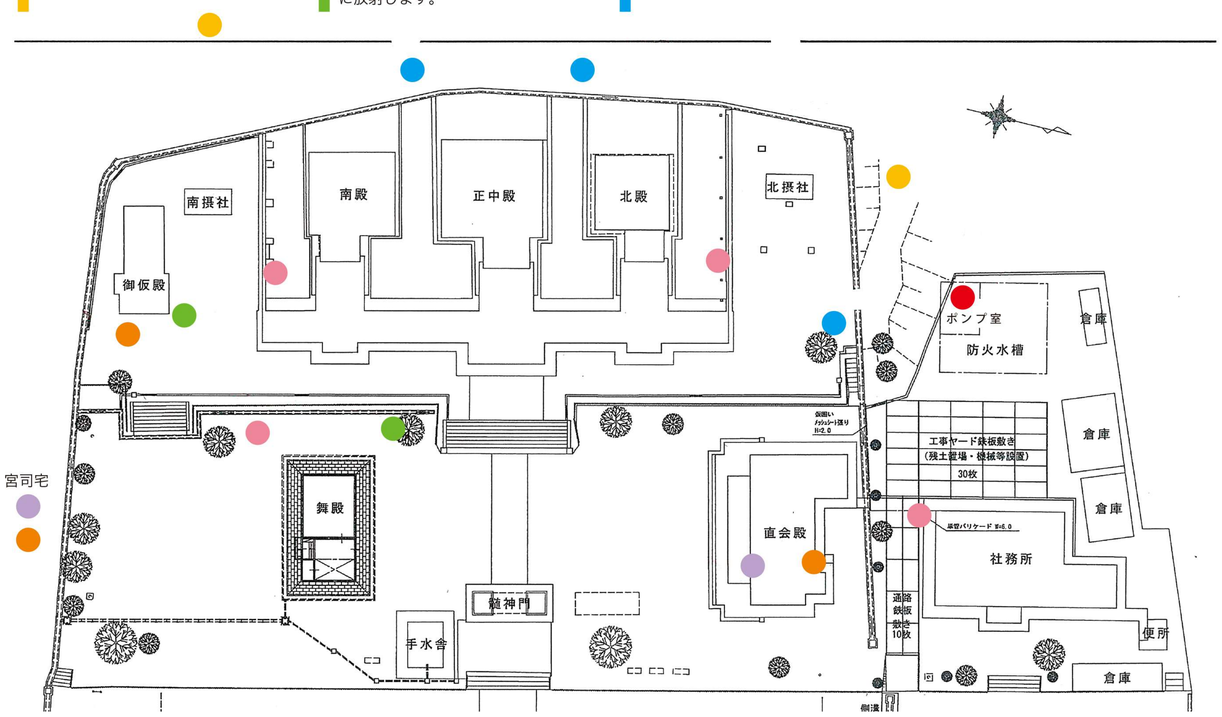
地表面下の格納箱内に放水銃を格納し、放射時に自動的に蓋が開放し、放水銃は自動首振し、定められた範囲内に放射します。





自走旋回式放水銃（ポール式）

自火報炎感知器、防犯カメラ、防犯装置付き
景観と一体となるように、高さ、保護色とし、柱の上に設置した放水銃から自動首振りし、定められた範囲内に放射します。





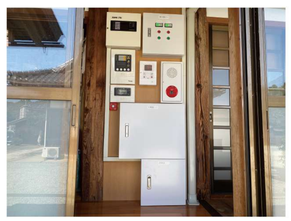
防犯カメラ

自火報炎感知器、防犯カメラ、防犯装置付き



防犯カメラモニター

防犯カメラの映像がハードディスクに保存される



GR 型火報受信機他警報設備

作動した感知器の場所を特定可能なため、対応しやすい



易操作性消火栓

1 人でも簡単に操作することができる。ホースは保形ホースとよばれる筒状に保たれたホースを使用しています。保形ホースを消火栓箱から引っ張り出しても、元から筒状に保たれているため、よじれることがなく、水路を確実に確保することができます。







祭事だより

年間を通して佐太神社では様々な古伝の祭が執り行われます。その一部をご紹介いたします。



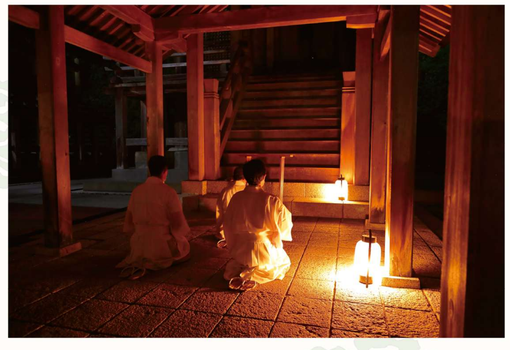
御座替祭 例祭「式三番」（千歳） 令和三年度文化庁補助事業として面・装束などが新調されはじめての御座替祭

九月二十四日・二十五日　御座替祭（ゴザガエサイ）

令和四年九月二十四日御座替祭を斎行しました。御座替祭は御本殿三柱をはじめ摂社末社すべての御神座の茵蓙を取り替えるお祭りです。御神座の茵蓙を新しく取り替えることで神々の霊威が常に新しく続くとされ、当社の数ある祭の中で最も重儀であり年毎の遷座祭ともいえる祭です。翌二十五日午後二時より例祭を執行し、滞りなく御座替祭が行われたことを祝し夜七時に式三番・神能を奉納いたします。子ども佐陀神能教室による演舞も奉納されました。









十一月二十日～二十五日　神在祭（ジンザイサイ）

令和四年十一月二十日神在祭神迎神事を斎行しました。社伝によると当社は伊弉冉尊（いざなみのみこと）の陵墓である比婆山の神陵を遷し奉った社と伝え旧暦十月は母神である伊弉冉尊を偲んで八百万の神々が当社にお集りになるとされています。二十五日には神ノ目山の斎場へ神々をお送りする神等去出神事（かみさでしんじ）が執り行われました。

お祭り期間中は、八百万の神々の先触れ（さきぶれ）「龍蛇神（りゅうじゃしん）」の特別拝観を舞殿にて行い、多くの方に御参拝いただきました。

































エネルギア文化・スポーツ財団の助成をいただき、直会祭の「杯式」に使用する大太刀　小太刀　矢筒「猿田三番舞」に使用する鉾の修繕を行いました。





一月一日　歳旦祭（サイタンサイ）

令和五年一月一日　早朝に歳旦祭を斎行し皇室の弥栄、氏子崇敬者の家運隆昌をお祈り申し上げました。早朝より多くの方にご参拝いただきました。







五月三日　直会祭（ナオライサイ）（悪縁切り良縁結び大祭）

令和五年五月三日　直会祭を斎行いたしました。佐太神社の発展と共に広大無辺なる御神恩を報謝し、国家の弥栄と氏子、崇敬者各位の家運隆昌・無病息災が祈念され、「悪切祈祷」を奉納しました。悪切祈祷は古来より出雲地方に伝わる祈祷の舞で、諸々の災い、病災を切り祓います。尚、コロナ禍により参列は氏子総代のみで行われました。午後二時からは直会祭が行われ庭上では「杯式」「獅子舞」舞殿では国庁神事が佐太神社古伝神事保存協会の方々のご奉仕により滞りなく執り行われました。





五月二十日～二十五日　神在裏月祭（ジンザイウラヅキサイ）

令和五年五月二十五日 嘉例により神在裏月祭（写真は神等去出神事の様子）を斎行致しました。当社では神無月と同様の祭を卯月行っていました。これを神在裏月祭と云い、現在は陽暦五月に行います。十一月の神在祭と同様の祭を行いますが神職のみで祭に奉仕します。







なぜ年間二度もの神在祭を行うのかについてですが、古い祭の形態で、御霊を祀る盆・正月、水無月・師走の大祓などと同義という説もありますが定かではありません。なお、明応二年（１４９３年）の佐陀大社縁起によると「(陰暦)十月に八百万の神々が当社に御参集になるので伊勢・住吉の両神だけは留まって国家をお守りになる。(陰暦) 四月にこの両神が当社に御参集になるので毎年二度神在祭がある。」とされています。また、ご参集になるのは鹿島・香取の両神で、祭りの間当社の摂社田中神社においでになるという社伝もあります。



六月三十日　水無月大祓（ミナヅキ オオハラエ）

令和五年六月三十日 嘉例により水無月大祓を斎行致しました。この祭は夏越大祓とも云い、半年の間に知らず知らずのうちに身に付いた罪穢れを祓い、清らかな身に立ち返らんとする神事で、『備後国風土記』の逸文にある「蘇民将来」神話では茅ノ輪を腰につけて災厄から免れたとされ、茅の旺盛な生命力が神秘的な除災の力を有すると考えられてきました。









七月十五日　御田植祭（オタウエ サイ）

令和五年七月十五日 古伝祭 御田植祭を斎行いたしました。来年の豊作を祈る予祝の祭りです。氏子総代や保護者が見守る中、佐陀宮内地区小学生（女子生徒に早乙女、男子生徒に歌人として）ご奉仕いただきました。松葉を苗に見立てて所作をするのが特徴です。







令和４年度 佐太神社崇敬会事業報告

去る６月 15 日に崇敬会理事会・評議員会が開催され、令和４年度事業及び会計報告、令和５年度事業計画及び予算案が下記のとおり承認されましたのでご報告申し上げます。会員の皆様方におかれましては、今後とも当会の趣旨に御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

月　日	事業・祭事名	概　要
５月３日	崇敬者大祭	佐太神社の発展とともに広大無辺なる御神恩を奉謝し国家の弥栄と崇敬者各位の家運隆昌・無病息災を祈念 関連祭事／悪切祈祷の奉納／コロナ禍の為、神職・氏子総代のみ奉仕／佐太神社門前市中止
６月 15 日	理事・評議員会(総会)	令和４年年度活動・決算報告 令和５年度予算・活動計画の承認
９月 24 日～25 日	御座替祭・例祭	御座替祭・例祭への参列自粛案内送付 こども佐陀神能教室成果発表会
10 月２日	神座～神々への舞～	佐陀神能ユネスコ無形文化遺産登録 10 周年記念・舞殿修復工事完工記念（コロナ禍により１年延期し開催） 広告協賛活動の実施
11月 20 日～25 日	神在祭	御神灯奉納受付・燈明 参列案内送付
２月３日	節分祭	氏子有志による鯨汁ふるまい コロナ禍の為中止
通年の活動	式年御造営奉賛活動	寄付金の募集 第二期工事記念品の頒布
	古伝祭奉賛事業 修繕・環境整備事業	古伝祭継承、修繕・環境整備事に係る費用の補助 佐太神社へ寄贈　弓石玉垣設置工事の実施
	広報事業	各祭事に案内状作成・送付 崇敬会入会・第二期工事奉賛案内送付 崇敬会だよりの発行／公式ホームページや SNS 等で祭事関連の話題を掲載
	補助事業	佐陀神能ユネスコ無形文化遺産登録 10 周年記念事業（令和４年度に延期）広告協賛の実施／佐太神社古伝神事保存協会、佐陀神能保存会への活動補助金として各13万円を補助／直会祭に使用する諸道具新調の為30万円古伝神事保存協会へ補助／節分祭催しはコロナ禍の為中止

会員への待遇	会員加入状況
①希望者に御本殿御垣内参拝 ②各祭事参列案内送付 ③崇敬者大祭に招待 ④毎年神札を授与 ⑤会員章を授与	会員数　件数（増減）未 準会員　95 件（△8）15 会員　115 件（△7）17 正会員　78 件（△4）15 法人会員　15 件（＋1）　2 合計　303 件　49 会費未納２年以上の方は退会扱いとした

令和４年度 佐太神社崇敬会一般会計決算報告書

令和4年4月1日～令和5年3月31日

【歳入】　（単位：円）

項目	決算額	今年度予算額	増減	備考
繰越金	1,108,205	1,108,205	0	
会費	2,123,600	1,800,000	323,600	
寄付金	2,236,500	430,000	1,806,500	寄付・広告協賛金等
繰入金	0	0	2	
雑収入	6	795	▲ 789	預金利息等
合　計	5,468,311	3,339,000	2,129,311	

【歳出】　（単位：円）

項目		決算額	今年度予算額	増減	備考
玉串料		100,000	100,000	0	祭典玉串料
奉賛事業費		2,899,560	1,470,000	1,429,560	
	古伝祭奉賛事業	200,000	200,000	0	古伝祭費用補助として佐太神社へ寄贈
	崇敬者大祭奉賛事業	361,000	370,000	▲ 9,000	
	修繕・環境整備事業	847,060	700,000	147,060	環境設備費　30万円佐太神社へ寄贈　弓石玉垣設置工事他
	式年御造営奉賛事業	1,491,500	200,000	1,291,500	佐太神社施設整備特別会計へ繰り入れ
事務費		878,281	810,000	68,281	
	会議費	33,488	50,000	▲ 16,512	役員会　総会費用
	手当	35,000	40,000	▲ 5,000	監査手当・祭事写真撮影手当
	通信費	214,156	150,000	64,158	郵送料　インターネットプロバイダ料金等
	印刷製本費	478,170	400,000	78,170	崇敬会だより・会員入会及び寄付案内等の作成費
	消耗品費	11,305	30,000	▲ 18,695	
	旅費・交通費	30,000	30,000	0	
	広報費	71,500	100,000	▲ 28,500	公式ホームページ管理費用等
	支払手数料	4,662	10,000	▲ 5,338	口座振替手数料
委託料		202,880	260,000	▲ 57,120	
	システム利用料	119,880	150,000	▲ 30,120	顧客・仕入管理・販売管理システム使用料
	保守料	33,000	60,000	▲ 27,000	顧客・仕入管理・販売管理システム保守料
	事務委託料	50,000	50,000	0	
補助金		670,000	290,000	380,000	古伝神事保存協会補助　佐陀神能保存会補助
基金		150,000	150,000	0	基金へ繰出
予備費		136,101	259,000	▲ 122,899	寄付返礼等
合　計		5,036,822	3,339,000	1,697,822	

歳入合計	歳出合計	差引残高
5,468,311	5,036,822	431,489

上記の残額は、令和5年度会計へ繰り越すものとする。

令和４年度佐太神社崇敬会会計監査について
関係帳簿等を監査した結果、適正に処理が行われ、正確であったことを認めます。

令和５年６月 15 日　　監事　桑谷充夫
監事　井山定夫

※個人情報の観点から、署名及び印影については資料に掲載しておりません。



佐陀神能保存会「大社」

去る令和四年十月二日に開催いたしました第三回「神座～神々への舞～」に際しましては皆様方の御支援・御協力を賜り有り難く厚く御礼申し上げます。

佐陀神能ユネスコ無形文化遺産リスト登録十周年の記念及び佐太神社舞殿修復工事竣工記念事業として当初、令和三年に実施を計画しておりましたが、コロナ禍の為、延期せざるを得ない状況となり関係各位には大変ご迷惑をおかけしました。

今回のテーマは「御神体出現の舞」でしたが、ご出演いただきました高千穂の夜神楽伝承協議会様、島後久見神楽保授者会様、大土地神楽保存会神楽方様には古くから受け継がれて来た貴重な舞を演舞いただき素晴らしい奉祝行事が開催できました事、改めて御礼申し上げます。

私共佐陀神能保存会一同、引き続き保存継承に鋭意務めてまいりますので今後ともお力添えを賜りますよう宜しくお願いします。



高千穂の夜神楽伝承協議会「御神躰の舞」



子ども佐陀神能教室「八乙女」



大土地神楽保存会神楽方「野見宿禰」



島後久見神楽保持社会「猿田彦」



（写真左）報告写真集／（写真右）神座開催当日用のプログラム
報告写真集の発行にあたり国立大学法人島根大学教育学部 准教授 錦織稔之様にご寄稿いただきました。

報告

第三回 神座（カムクラ） ー神々への舞ー 各地に傳わる御神体出現の舞

佐太神社式年御造營第二期工事舞殿改修工事完成
佐陀神能ユネスコ無形文化遺産登録十周年記念

令和５年度 佐太神社崇敬会一般会計予算書

佐太神社崇敬会は平時における佐太神社を奉護して、御神徳を宣揚し、年中数度の古伝の催事を振興して、神社の隆昌を願い、御本殿三宇をはじめとした国・県指定の文化財・美術品等の社宝を末永く後世に伝えると共にこれを活用して文化の創造・発展に役立て、広大無辺なる御神徳のもと、広く人々の平安と繁栄を願い設立されました。この趣旨にご賛同いただき多くの方々にご入会、ご支援を賜り、更なる奉賛事業の発展に取り組んでまいりたいと存じます。

【令和５年度 佐太神社崇敬会一般会計予算書】

自：令和5年4月1日～至：令和6年3月31日

【歳入】

（単位：円）

項目	今年度予算額	前年度予算額	増減	備考
繰越金	431,489	1,108,205	▲ 676,716	
会費	1,900,000	1,800,000	100,000	
寄付金	700,000	430,000	270,000	寄付・広告協賛金等
繰入金	0	0	0	
雑収入	511	795	▲ 284	貯金利息等
合　計	3,032,000	3,339,000	▲ 307,000	

【歳出】

（単位：円）

項目		今年度予算額	前年度予算額	増減	備考
玉串料		100,000	100,000	0	祭典玉串料
奉賛事業費		1,070,000	1,470,000	▲ 400,000	
	古伝祭奉賛事業	200,000	200,000	0	古伝祭費用として佐太神社へ寄贈
	崇敬者大祭奉賛事業	370,000	370,000	0	
	修繕・環境整備事業	300,000	700,000	▲ 400,000	環境整備費 30万円佐太神社へ寄贈
	式年御造営奉賛事業	200,000	200,000	0	佐太神社施設整備特別会計へ繰り入れ
事務費		810,000	810,000	0	
	会議費	50,000	50,000	0	役員会　総会費用
	手当	40,000	40,000	0	監査手当・祭事写真撮影手当
	通信費	150,000	150,000	0	郵送料、インターネットプロバイダ料金
	印刷製本費	400,000	400,000	0	崇敬会だより会員入会及寄付案内等の作成費
	消耗品費	30,000	30,000	0	
	旅費・交通費	30,000	30,000	0	
	広報費	100,000	100,000	0	公式ホームページ管理費用等
	支払手数料	10,000	10,000	0	口座振替手数料等
	雑費	0	0	0	
委託料		410,000	260,000	150,000	
	システム利用料	150,000	150,000	0	顧客・仕入・販売管理システム使用料
	保守料	60,000	60,000	0	顧客・仕入・販売管理システム保守料
	事務委託料	200,000	50,000	150,000	
補助金		290,000	290,000	0	古伝神事保存協会補助　佐陀神能保存会補助
基金		150,000	150,000	0	基金へ繰出
予備費		202,000	259,000	▲ 57,000	寄付返礼品
合　計		3,032,000	3,339,000	▲ 307,000	

（単位：円）

歳入合計	歳出合計	差引残高
3,032,000	3,032,000	0

報告

令和四年度 しまね建築・住宅コンクール「優秀賞」受賞





作品名　出雲国二ノ宮 神在の社 佐太神社 佐陀神能舞殿
建築主　佐陀神能保存会
設計者　石原社寺建築設計事務所　様
施工者　カナツ技建工業 株式会社　様

蔀戸や格子に宮大工の技術が光る優美な舞殿

令和四年度しまね建築・住宅コンクール「優秀賞」に当社舞殿が選ばれ、令和五年三月二日に表彰式が行われました。

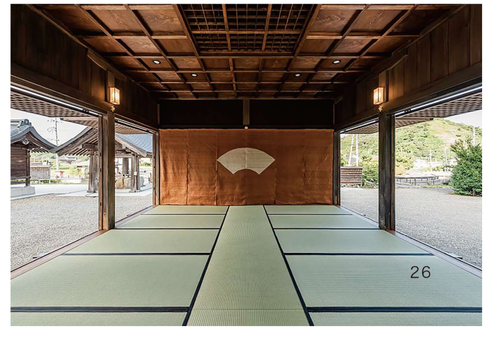
佐太神社の舞殿は2間・5間の木造平屋建てで、本殿側の2間・3間が舞台で奥の2間四方分が楽屋です。昭和十七年の御造営工事に横馬場移転されましたが、昭和五十五年に元の場所に再び戻りました。昭和十七年の御造営工事で石垣が二メートル程度広がったため、石垣と舞殿の距離が近く石垣の崩落危険性や佐陀神能の拝観スペースが限られることからこの度の修復工事で曳家を行い、同時に基礎を新しくして耐震性の確保が行われました。

改修前の舞殿は三方吹き曝しで　雨風や冬季には練習ができませんでしたが、新たに「蔀戸（しとみど）」を設置し、通年で利用できる環境になりました。蔀戸の上半分は吊り上げて金物で固定し、下半分は床下側面に折り畳むことで、開閉の手間を最小にする独自の仕組みが採用されています。照明器具も組子細工があしらわれ、配線も目立たないように工夫されています。天井中央の目隠し格子の奥には黒色に塗装された空調が収められています。佐陀神能の格調を高め、かつ練習の場としても使い勝手の良い機能性を備えた設備です。




子ども佐陀神能教室「真ノ神楽」（第三回 神座）

舞殿の改修工事に際し、ご支援・ご協力を賜り増した皆様に厚く御礼申し上げます。今後とも佐陀神能の保存継承に鋭意取り組んで参りますので引き続きご厚誼を賜りますようご宜しくお願いします。



報告

エネルギア文化・スポーツ財団 第29回 エネルギア「伝統文化賞」受賞



公益財団法人 エネルギア文化・スポーツ財団 第 29 回エネルギア「伝統文化賞」受賞 表彰式（広島市内）

「佐陀神能保存会」格調を保持・継承に取り組む

公益財団法人 エネルギア文化・スポーツ財団様より佐陀神能保存会に対して第29回（2023年度）伝統文化賞をいただきました。令和四年四月十八日 表彰式が広島市内にて行なわれ、苅田理事長様から表彰盾と副賞を拝受いたしました。

大変栄誉ある賞をいただき、有り難く厚く御礼申し上げます。会員一同これからも継承に努力してまいりますので引き続き皆様方のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【以下 公益財団法人 エネルギア文化・スポーツ財団ホームページより引用】

佐陀神能保存会は、国の重要無形民俗文化財に指定され、ユネスコ無形文化遺産に登録されている「佐陀神能」の保存継承活動を積極的に行っている。

長い歴史を持ち、神事と民俗芸能を一体化させた「佐陀神能」を守り伝えるために、毎年四月～十一月にかけて定期公開を実施し、伝承されてきたさまざまな演目を披露している。

また、全国各地に残る神楽団体を招いた交流公演「神座（かむくら）」を行うなど、佐太神社の神事奉納を続けながらも、発表活動を精力的に行っている。２０２０年1月には東京国立劇場主催の民俗芸能公演「出雲の神楽」に出演するなど、国内でも高い評価を受けている。

２０１９年度からは、子ども佐陀神能教室事業をスタートさせ、地域に伝わる「佐陀神能」に触れる機会をつくり、次世代の担い手育成にも力を入れている。

あわせて、佐陀神能民俗文化財調査事業をもとに、文化庁の補助を受けて、「佐陀神能」で使用する面・衣装・用具の復元なども手掛けている。

このように、佐陀神能保存会は、これまでの高い格調を保持し、保存・継承に取り組んでおり、その活動は高く評価されている。



報告

後世に伝える 佐陀神能用具等修理・新調事業

「佐陀神能民俗民俗文化財調査委員会」により令和元年度から令和二年度の二か年にわたり行われた調査結果を基に専門家の指導を頂き、佐陀神能保存会が使用する面・装束・その他諸道具について週留・新調事業を令和三年度より令和五年度にかけて実施しています。

令和四年度文化庁補助事業で行われた内容は下記の通りです。



①『八重垣』大蛇面 装束

佐陀神能の大蛇は「立ち大蛇」と呼ばれ、二本足で立って舞います。布衣は鱗模様で背に榊を背負い、面には眼が16個（両眼と額に14個）ついており、八頭分の大蛇を表現しています。その象徴的な容姿は猿楽能の影響を受けていると考えられ、佐陀神能独特の大蛇の形態です。

布衣は保存会で使用しているものが経年劣化しましたので新調、面は古浦天満宮の社家、宮永家に伝わる面を参考に復元新調いたしました。



【復元新調】大蛇 布衣



【参考】大蛇面（個人蔵）



【復元新調】大蛇面

②『八重垣』素尊面

鼻の部分などに塗装剥離があり、これ以上剥離が進まないように修復が施されました。この面は松江市東生馬の生馬神社の社家であった中川家より譲り受けたものです。経年劣化も激しいことから復元新調を行いました。



【参考】素尊（佐陀神能保存会蔵）



【復元新調】素尊

③『大社』佐太大神面

松江市島根町野波の日御碕神社の社家であった朝倉家所蔵でしたが、現在は野波自治会が所蔵し松江市鹿島民俗資料館に寄託されています。これを参考に復元新調しました。



【参考】佐太大神（野波自治会蔵）



【復元新調】佐太大神

④『大社』龍神面

この面も生馬神社の社家であった中川家より譲り受けたもので、塗装の剥がれや面の割れ、顎部分の損傷があることから復元新調することにしました。



【参考】龍神面（佐陀神能保存会蔵）



【復元新調】龍神面

⑤『八幡』八幡神面

顎の木地割れがあり紙張りしていましたが一部が剥がれて浮いている状態。鼻先は色彩剥落しており、その周辺を重ね塗りにて補修していました。その他、顎・眉・額上部に色彩剥落が見られました。劣化した部分が剥落しないよう処理し、復元新調を行いました。



【参考】八幡神面（佐陀神能保存会蔵）



【復元新調】八幡神面

⑥『真切目』切目命面

昭和期にペンキ塗装をしたため、本来の姿に復元新調することにしました。なお、見本面の素材はヤマグワが使用されていましたが、一般に流通していない素材のため新面には檜を使いました。



【参考】切目命面（佐陀神能保存会蔵）



【復元新調】切目命面

【見本面の素材】　佐太大神：杉　八幡神：檜　素尊：檜　大蛇：檜　龍神：檜　切目：山桑

報告

後世に伝える 佐陀神能用具等修理・新調事業

神能『八幡』『三韓』『武甕槌』の装束・毛頭・剣など

文化庁補助事業の他に令和四年度には松江市補助事業として胴長太鼓の皮張替、締太鼓・笛・大鼓・小鼓の新調、神能『八幡』『三韓』『武甕槌』の装束・毛頭・剣などを新調しました。



【新調】『八幡』八幡神　狩衣



【新調】『武甕槌』　武甕槌神　狩衣



【新調】『三韓』　新羅王　狩衣

胴長太鼓の皮張替、締太鼓・笛・大鼓・小鼓の新調

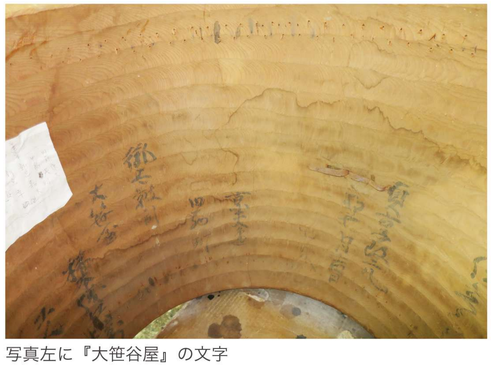
京都の老舗『大笹屋』およそ330年ぶりの里帰り

胴長太鼓の皮張替 修繕の際、内側の墨書に「貞享改元」「大笹屋」と記されていました。「貞享改元」という場合、以下の二通りが考えられます。

①貞享という新しい年号に改まった年＝貞享元年（1684年）

②貞享という年号から次の年号に改まった年＝貞享五年（元禄元年）（1688年）

※貞享5年9月30日に「元禄」に改められました。



写真左に『大笹谷屋』の文字

当社の上官で　注連祝　幡垣正仍の記した「佐陀社頭日記」の貞享5年8月20日の記録に「…宮之太鼓やぶれ候間…」とあり八月に皮が破れて九月末以降に張替をして「貞享改元」と記したとも考えられますが、確証がないため断定はできません。

「大笹屋」は今も京都にある老舗で、図らずも今回の張替も大笹屋さんに行ってもらいました。

報告

式年御造営第二期工事実施状況について

佐太神社社務所増築その他工事









佐太神社社務所増築その他工事
施工：株式会社 佐藤組
工期：令和５年５月31日～11月26日

社務所西側に宮司潔斎室・書庫を増設します。宮司潔斎室は御座替祭に五日間、外部との接触を断ち、忌籠を行う場所です。令和五年六月二十一日に関係者参列のもと、工事安全祈願祭を執り行いました。

また、藻汐祓の案内板が経年劣化のため新調いたしました。佐太神社崇敬会の環境整備事業として弓石に玉垣を設置、それを機に御由緒案内板を設置いたしました。





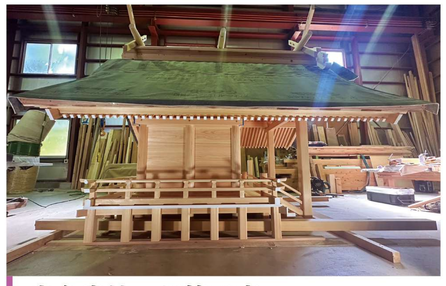
弓石／藻汐祓　案内板設置
施工：株式会社 石原建築
工期：令和５年７月18日完工

宇多貴社 新築工事

宇多貴社は出雲國風土記に記載される古社で下照姫（したてるひめ）を御祭神としています。元は鹿島歴史民俗資料館と縦馬場の間にある社地に社殿がありましたが、社殿破損の為、現在は佐太神社御本殿に合祀されています。

この度、篤志家の方による御寄付を戴き再建することになりました。

なお、令和六年三月に遷座祭を行う予定です。



宇多貴社　新築工事
施工：株式会社 石原建築
工期：令和６年３月完工予定

編集後記

コロナ禍の三年間で参列者の安全と健康に配慮し、中止あるいは規模の縮小や参列自粛などが全国的に行われ、祭の様相が一変しました。

また、氏子数の減少や生活様式の変化から今まで続けてきた祭や伝統行事が維持出来なくなってきています。近郷諸社においても祭で幟を立てる事を止めてしまおうというところもあったように伺っています。

幟は神社の名前を記した看板のような認識をもっておられる方もいますが、一説には「オハケ」と呼ぶ青竹に御幣や神符を付けて祭の当屋の家の前に立てられる物と同義で神の招代（おぎしろ）・依代（よりしろ）として神々の来臨を願い、清浄を表す目印として重要な意味を持っていると考えらます。

一度やめてしまうと元に戻すことは容易ではありません。古より伝えられて来た風習を大切に受け継いでいただきたいものです。（J）



佐太神社崇敬会の奉賛事業に
ご協賛頂き誠にありがとうございました
（順不同・敬称略）

給排水衛生設備工事
株式会社 **大湖設備**
代表取締役　武田仲雄
松江市浜乃木5丁目10番3号
TEL（0852）25-5074(代)

TANIDEN
代表　泉谷祐真
〒690-0321松江市鹿島町武代222-8
TEL 080-9790-7419

和幸電通株式会社
本　社　松江市古志原２丁目 22-14　ＴＥＬ(0852) 24-6670（代）
松江支店　松江市古志原２丁目 22-14　ＴＥＬ(0852) 24-6666（代）

松井 康弘

三浦 美和子

北國 英一

大森 正裕

高木 美和子

鹿児島縣　新屋 信江

火災から大切な命と財産を守る

能美防災は貴重な文化財を守るため、
最適なシステムをご提案しています。


放水銃


赤外線式3波長炎感知器



消火栓

NOHMI 能美防災株式会社
中国支社：〒732-0044 広島市東区矢賀新町4-5-26 ☎(082) 510-1125



EMOTION
SMILE
HUMAN
FUTURE
美しい伝統・文化を
未来へつなぐ
カナツ技建工業株式会社
〒690-8550 島根県松江市春日町 636 番地　TEL.0852-25-5555　FAX.0852-27-1207
HP　http://www.kanatsu.co.jp/



島根電工

佐太神社崇敬会の奉賛事業に
ご協賛頂き誠にありがとうございました
（順不同・敬称略）

株式会社 健身倶楽部RAKU

朝山 真理子

田中 喜美子

お導きと出逢いの神社参道カフェ
佐陀乃だんだん家
営業時間 10：00-16：00／不定休　松江市鹿島町名分 1348-1　Tel：0852-82-1104
（佐太神社駐車場内）

前田 三郎

天真会

佐太神社崇敬会だより　神在の社（かみありのやしろ）

佐太神社崇敬会の奉賛事業に
ご協賛頂き誠にありがとうございました
（順不同・敬称略）

加藤 真義	
鶴岡 千佳子	
渡邊 喜代美	
岡本 光生	亀田 静枝
佐々木 憲人	佐藤 正典
出口 幸宏	新屋 尋崇

丹野 佳代子	貴谷 麻以
原田 豊美	松本 浩幸
長谷 春美	楠 桂巳
武山 良広	西山 智重子
廣瀬 精雄	神崎 福夫

佐太神社崇敬会の奉賛事業に
ご協賛頂き誠にありがとうございました
（順不同・敬称略）

大橋 緑	大村 太郎
藤原 正信	毛利 信二
磯田 祐二	石橋 みづ枝
中村 榮治	小川 悦男
上西 律子	大久保 孝子
井上 道子	堀 充夫
藤 吉郎	中村 麻理子
前田 美由紀	吉岡 修
森田 ゆい	田中 留美子

山下 勇也

我妻 智弘

加賀 敏夫

西山 賀子

和田 尚子

海雲 棚絹

社寺銅板葺／銅板細工／各種建築板金工事一式
纏屋
和田板金
MATOIYA WADABANKIN
SHAJI DOUBANBUKI
〒683-0853
鳥取県米子市両三柳366
TEL/0859-49-1105 FAX/0859-21-9166
E-mail/surf.one.wan@gmail.com
建設業許可
鳥取県知事 許可(般-29)
第7216号

文化財建造物修理 神社仏閣建築
株式会社 石原建築
本　社
〒694-0431 島根県大田市祖式町359-1
TEL(0854)85-2355
FAX(0854)85-2425
出雲支店
〒693-0213 島根県出雲市朝山町627-1
TEL(0853)48-9000
FAX(0853)48-9025
社寺の石原
検索

Office Communication
株式会社 コニシ
本社　〒693-0021 島根県出雲市塩冶町 1225-39
TEL:0853-22-6578 FAX:0853-23-2856
http://cs-konishi.co.jp/

株式会社 カクト鈴木商店